

# 令和4年度第2回いわき市まちづくり市民会議 議事録

## 1 日 時

令和4年10月25日(火) 13:30~15:00

## 2 場 所

いわき市役所 3階 災害対策本部会議室

## 3 出席委員数

17名(代理出席者1名を含む)

## 4 次第・資料

別紙のとおり

## 5 協議事項

- (1) 令和5年度の政策の骨格について
- (2) その他

## 6 協議事項等の内容

### ◇ 議事録署名人の選任

発言者	発言要旨
議 長	議長として議事の運営にあたらせていただく。円滑な進行にご協力願う。
委員一同	本日の議事録署名人について、以前定めたとおり、名簿順に指名することとし、本日は、高島委員と中根委員にお願いしたいが、よいか。  (異議なし)

### (1) 令和5年度の政策の骨格について(資料1)

発言者	発言要旨
事務局	資料1に基づき説明
議 長	ただいまの説明に対し、ご意見・ご質問があればお願いしたい。
芥川委員	「ゼロカーボン」に向けた具体的な取組みについて教えてほしい。
事務局	現在、本市は、ゼロカーボンに向けた取組みへの考え方、施策の方向性、取組みの集約などについて、検討・整理を行っているところであり、今後、これらの作業を進めていく中で、取り組むべき具体的な施策を明らかにして

芥川委員	<p>いく。</p> <p>一方、小名浜港は、カーボンニュートラルポートの形成を目指すこととされており、本市も県と連携しながら、脱炭素に向けた港湾運用の実現に向け、取組みを進めているところである。</p> <p>当分野については、行政が単独で取り組むのではなく、今後、福島高専や大学の知見や取組みのほか、いわき商工会議所が設立・活動している脱炭素にむけた検討会などとも協働し、それぞれの英知を出し合いながら産学官の連携により進め、本市がその中で担うべき役割を明確にしていく考えである。</p> <p>単に市のみで取組みを進めるわけではなく、産学官の連携により進めていくという考えの認識であることを理解した。</p>
田子委員	<p>質問は2つある。</p> <p>1つ目だが、「学力向上」と「若者の流出」は密接に関連しており、教育の分野で、グローバル、エリートな人材を育成することも非常に重要なことである。一方、郷土愛を育み、いわきに居住・貢献してもらうための取組みも非常に重要なことである。市は、この2つの両立について、どのように考えているか。</p> <p>2つ目は、福島国際研究教育機構が浪江町に整備されることが決まったが、同機構との連携は極めて重要であり、市として、どのように連携を図っていく考えか。</p>
事務局	<p>1つ目の質問について、本市は、子どもたちの確かな学力向上に向けた各種施策に取り組む一方、キャリア教育として、子どもたちの心を育む人材育成の施策にも取り組んでいる。</p> <p>その例の一つとして、「いわきアカデミア事業」においては、子どもたちに向け、行政や企業、大学等が連携し、各種プログラムを展開することにより、郷土愛の醸成を図り、次代を担う人材育成、人材還流の仕組みづくりに、地域全体で取り組んでいる。</p> <p>また、学校教育の場においても、地域の企業訪問や社会科見学などを通じ、学力の向上だけではなく、郷土愛を育むことにも意を用いながら、将来、本市に残り、ふるさとを支えてもらえるような「人づくり」に寄与できるよう、取り組んでいるところである。</p> <p>2つ目の質問について、福島国際研究教育機構との本市の連携の考え方については、1つ目は、人材育成面での連携、2つ目は、産業界との連携、3つ目は、国際的なおもてなしという観点からの連携、以上3つの視点に基づき、検討を進めているところである。</p> <p>1点目の人材育成面での連携としては、今年度、機構との連携を行うための組織を学内に設け、共同研究や研究者の育成を進める取組みを始めた福島高専や市内大学等と連携し、先駆的な人材育成に寄与できるような取組みに</p>

	<p>よる連携を考えている。</p> <p>2点目の産業界との連携については、機構がテーマ設定をしている水素・新エネルギー、風力や廃炉産業などの5つの産業分野において、いわき商工会議所と連携しながら、連携可能な本市産業の状況の把握に努めているところであることから、引き続き、機構との連携方策について検討していく考えである。</p> <p>3点目は、国際的なおもてなしという観点における連携で、例えば、研究者のご家族の居住やお子様の教育など、充実した生活環境の提供等による連携という考えである。</p> <p>今後、このような方向性に基づき、必要な連携方策について、引き続き産学官で協働しながら、検討を深めていく考えである。</p>
田子委員	<p>説明について、理解した。</p> <p>「学力向上」というワードは、単にテスト勉強の成績だけを伸ばすという意味で認識している市民の方が非常に多いと感じていることから、取組みの内容については、丁寧な説明を心がける必要があると思う。</p> <p>また、福島国際教育研究機構に関連しては、とにかく先手を打つ対応を行っていくべきである。</p>
事務局	<p>意見について、了解した。</p>
強口委員	<p>ただいまの田子委員の質問にあった「学力向上」に関連し、先ほど事務局から「学校カルテ」という取組みの紹介があったが、具体的にはどのようなものか。</p> <p>また、福島国際教育研究機構に関しては、田子委員の意見のとおり、本市がどう歩み寄り、どう積極的な連携を図っていくかということがポイントになると思われるため、今後の取組みに期待したい。</p>
事務局	<p>意見について、了解した。</p> <p>なお、「学校カルテ」は、全国学力・学習状況調査の結果を、各学校ごとに正答率、学習への取り組み方などをまとめ、課題や改善点を明確にし、効果的な指導を行いながら、学力の底上げを図る取組みの一つとして実施しているものである。</p>
強口委員	<p>説明について、理解した。</p> <p>学校単位でカルテを作っているので、学力に特化した活用にとどまらず、その地域の歴史や文化などの学びに関連した項目なども設け、郷土愛の醸成も図ることができる内容とすれば、より良い活用ができると思うため、ぜひ検討いただきたい。</p>
事務局	<p>意見について、了解した。</p>

<p>松本委員</p>	<p>今回、提示があった政策内容は、トップダウン型のイメージが強い。試行的に実践していくボトムアップ型の取組みも重要であり、双方の取組みが必要と考える。</p> <p>これからの時代、まちづくりにおいても、「これが正解！」という手法はないと思っており、大切なことは、小規模でもまずトライしながら、その検証を積み重ね、成果や解決手法を見出しながら行うことが成功への最短距離だと考える。</p> <p>そのため、そのような取組みにも必要な予算を担保し、実効的なまちづくりにつなげていく必要があると考える。</p>
<p>事務局</p>	<p>意見について、了解した。</p> <p>我々も、チャレンジ精神をもって、試験的な取組みからスタートし、政策を立案していけるよう意を用いて参りたい。</p>
<p>緑川委員</p>	<p>観光分野に関して、我々、いわき観光まちづくりビューローは、DMOという組織となって3年目となり、「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくり実現に向け、取組みを進めているところであるが、「訪れてよし」という考えばかりに注力した施策を展開していくと、住民の方の心が離れていってしまうと感じている。どちらの考え方も両立しながら取組みを実施していく必要がある。</p> <p>我々が実施した住民アンケートにおいて、本市の「住みよさ」や「観光地としての魅力」などの項目を調査したが、いずれの項目においても、非常に高い満足評価を得た。その一方で、市が抱える人口流出という課題は、その結果にある意味反するところがあるため、どのような分野においても、市が政策を考える上では、徹底的に且つ定期的にリサーチを行うなど、市民ニーズの把握に意を用い、政策立案をお願いしたい。</p>
<p>議長</p>	<p>観光施策を進める上で、そこに居住される住民の意見や気持ちに配慮しながら、施策展開をすべきというご意見と認識した。</p> <p>また、「住民意見」という話が出たため、私の方でも意見を付け加えたいのだが、今、「Z世代」と言われている10代から20代前半の方々と、30代以上の世代の方々の認識には、かなり違いがある。</p> <p>人口流出という課題を考えたとき、その考えるべき対象の世代層は、30代未満の方々となると思われるため、住民意見を調査するとした場合は、必要な対象を見極めながら、実効的な調査を行わない限り、課題の解決にはつながらないと思うので十分に認識いただきたい。</p>
<p>下境委員</p>	<p>若者の人口流出に関連して、意見する。</p> <p>先日、本学の東日本国際大学で実施した学園祭のイベントの一環で、一人の学生が話したエピソードが印象的であったため、紹介したい。</p>

	<p>本市は高校卒業後、大学進学をする方々の大半は市外に流出し、大学卒業後も本市に戻る方の数は極めて低いという実情の中、その解決策として紹介した考えは、いわき駅前のラトブ外壁に整備された大型ビジョンを活用し、毎朝高校生がバス待ちをしている時間に、就職企業情報の宣伝などを繰り返し流し続けることで、企業などの認知を深めることができれば、いざ就職を考える時期となったとき、それを思い出して本市に戻ってきてくれるのではないのかという内容である。</p> <p>若者が市外の大学等に進み、都市部での生活が楽しいと感じていると仮定すれば、地元に戻るためには、それなりのインセンティブがないと難しいと考える。</p> <p>現在、市でも、Uターン就職等を図るため奨学金の返還支援などの取組みを行っていると思うが、そういった情報を知らない人も多いと思うため、人口流出に歯止めをかけ、定住を促進するためには、大型ビジョンを活用した周知方法ということも、Z世代ならではのアイデアであり、一利あると思った。</p> <p>意見について、了解した。</p>
<p>金子委員</p>	<p>「未来に誇る都市への挑戦 (PI0)」に関連してだが、先日、遠方に住む友人が来市し、三崎公園へ連れて行ったとき、友人から、このような広い公園がたくさんあるということを誇りにしてはどうかと言われた。本市は、他にも多くの広い公園を有しており、彼女とのやり取りから、地域資源や資産が非常に豊富であることに改めて気づかされた。</p> <p>資料には、単に公園の利活用という表記しかないが、これら本市の地域資源を誇りにし、資料にはそのような部分も踏まえて内容を記載していただけると良いと思う。</p>
<p>議長</p>	<p>我々としては、日常では観光資産という認識はないものの、外部の方からすれば魅力的な資産という見方があるので、そのような視点も市の政策に改めて活かすという意見と認識した。外部の方々の意見を汲む機会も必要と思われる。</p>
<p>草野充宏 委員</p>	<p>本市の人口は、どんどん減少に向かい、その中でも、中山間地域における減少レベルは顕著に深刻で、今後どうやって人口減少に歯止めをかけるかが重要である。</p> <p>しかし、現状では、結婚をしない方々が多いと感じている。様々な事情があると思うが、昔でいえば、各町の青年会議所の活動を通じた若者同士の交流が出会いの場となっていた事例もあるため、市が、若者の出会いを促進するような機会の創出や、人口減少対策を講ずる課の設置など、今後、検討してはどうかと思う。</p>

議長	<p>人口減少問題に対する歯止めの提案と認識した。 事務局もこのような意識も持ち、対応を検討いただければと思う。</p>
中根委員	<p>子育て支援に関連し、子ども食堂への運営支援について説明があった。 少子化が加速する中、本当に子どもたちを大切にしたいと思っている。 私はJAで活動しているが、今後、何か支援をしたいとした場合に、外部団体も市と連携して支援できるような仕組みづくりを構築して行ってほしい。</p>
事務局	<p>意見について、了解した。</p>
山田委員	<p>教育に関連して、学校の教職員の働き方改革の一環とし、教職員の負担軽減のため、部活動の段階的な地域移行を進めるとされている中、中学校までは、部活動と地域のクラブチームはうまく連携がとれているものの、高校になると、円滑な連携が難しいという実態がある。 また、一方で、市外の強豪高校で活動するため、市外に流出してしまうケースもある。 今後、教職員の負担軽減の観点から、部活動と地域のクラブチームの連携は重要となるため、市としてもその連携方策などについて、考えていただければと思う。</p>
議長	<p>外部団体との連携支援についてであり、教育・スポーツの分野にも関わる意見であることから、引き続き、検討を進めてほしいという意見と認識した。</p>
金成委員	<p>人口減少に歯止めをかけるには、やはり「教育」が重要だと考える。 本市は、住みやすいという優位性があるものの、若者が高校卒業後に進学する場合、市外の大学に進学するケースがほとんどである。必要な学部を本市の大学に誘致するなど、本市で活躍する人材を本市で育成し、定住し続けてもらえるように取り組むことが、人口流出を防ぐ一番の策だと考える。</p>
野木委員	<p>GIGAスクールについて、ぜひ、この取組みを推進していくべきと考えており、市は子どもたちの意欲を高められる先生に教えてもらえるような環境の整備を進めて行ってほしい。 また、不登校の児童への対応について、子どもたちの実情に配慮した必要な取組み支援を強化して行っていただきたい。 子育て支援に関しては、子どもを出産されている方に対して、本市にすれば、ぜひもう一人産もうと思える環境を整える施策づくりに取り組んでほしい。 産業の観点からは、今後、市内企業がカーボンニュートラルへの取組みなど、新たな事業展開を進める中で、学生が就業できるような環境整備につい</p>

	<p>でも市で考える必要がある。</p> <p>また、ドローン活用に関し、法が改正され、今後活用が一層進む中、企業が続々参入している状況もあることから、何か新しい事業を立ち上げる際は、常に一番先に、最先端の取組みを進めていく姿勢を持っていただきたいと思う。</p> <p>最後に、スポーツに関して、いわきFCの活躍にあたり、J2昇格への期待が高まる中、今後、これを好機に観光・経済などの分野において、大きなプラスの効果をもたらすことができるよう、必要な取組みを進めていくべきと考える。</p> <p>またスタジアム整備についても、必要な取組みへの対応について、今から検討を進めていただきたい。</p> <p>委員の皆様からの貴重なご意見に感謝する。</p> <p>今後、我々は、本日皆様にお示した令和5年度の政策の骨格の考え方をベースに、予算編成作業などを経て、施策実施に結び付けていく。</p> <p>本日いただいた皆様からのご意見については、具現化できるものは取組みに反映し、長期に渡るご意見については、引き続き必要な検討を行っていく。</p> <p>次回の市民会議は、来年3月の開催を予定しており、予算編成作業などを経て、次年度の最終的な取組み内容が整ったら、再び、皆様にお示しし、改めてご意見等を伺いたい。</p> <p>また、本市は、4月から、構造改革推進本部を立ち上げ、取組みを進めている。</p> <p>我々行政が、当然対応すべき取組みについては、これまでと変わらず着実に実施していく。一方、社会情勢が刻々と変化していく中で、現在の仕組みや取組み、職員の考え方やスキルなどが、本当に求められているか、正しいかどうかについて自問自答し、必要な政策や進め方、決め方にするため、時代の流れに合わせ、リスクを恐れず変えていくとして始めたものである。</p> <p>簡単な道のりではないが、地にしっかりと足をつけ、若い職員の力を引き出しながら、取り組んでいく。</p> <p>また、当たり前なのが成功する時代ではないため、先ほど松本委員からご意見があったように、トライアルな取組みも大切に、チャレンジしながら事例を積み上げ、取組みの効果を検証・分析しながら、必要な取組みへ改変していくとともに、職員の組織風土も変えていくことを目指し、取組みを進めていく。</p>
事務局	
議長	<p>市は、各委員からの意見を真摯に受け止め、十分対応すること。</p>

(2) その他

発言者	発言要旨
議長	他になければ、以上で本日の議事はすべて終了する。 以上をもって、私の本日の役割を終わらせていただく。

以上

以上の議事録が正確であることを証するため、次に署名する。

令和 4 年 11 月 25 日

議事録署名人 高島 翠

令和 4 年 11 月 18 日

議事録署名人 中根 まり子